

桜蔭俳話会

九月句会(第二九八回) 於桜蔭会館

平成二十三年九月二十五日

出句 五句、選句 六句

2点②生きてゐるものに影ある良夜かな 守

2点①帰燕かな航跡といふ海の傷 貞勝

2点 少年の恋の行方や鳳仙花 守

赤蜻蛉左廻りを好みけり 秀一

1点 花嫁の父の緊張秋うらら 友子

鯉群れて友禪のやう水澄めり 貞勝

名月やひとりは惜しと夫を呼ぶ 友子

さすりたる父の細き手秋暑し 友子

秋天やいまも不二家のチョコが好き 秀一

仮の世の花野に探す鍵ひとつ 守

鶏頭や酸素マスクの中の声 友子

雲とんで港の秋は沖より来 貞勝

犬つころと台風一過の道を掃く 幸

生き様が父の教へよ月天心 友子

※ 芙蓉咲く女あるじのティールーム 秀一

栗の毬拾ひ集めし落し穴 幸

美術館展望台と敬老の日 眞三

踏み入りし秘密の山のあけび熟る 幸

生々と四ツ角隅の野朝顔等 眞三

おぼろげに浮ぶルーツや墓洗ふ 守

秋暑し行きそびれたる工芸展 秀一

名月のそばをチカチカ来る光り 眞三

発想の十人十色案山子かな 幸

しばらくは列車来ぬ駅あきつ群る 貞勝

散骨の岩場に流る鯛雲 幸

待ちわびて黄色に光る十三夜 眞三

好日や赤くて辛くて唐辛子 貞勝

秋晴や防犯カメラ作動中 守

秋夕焼時計の電池切れにけり 秀一

雨止むといつせいにする虫の音 眞三

不在投句 野上貞勝、稲葉幸、岩野ヤエ子、

藤本友子